

庄原市口和町所在

いなほしば

# 稲干場第2～4・9号古墳

遺跡見学会資料



平成19(2007)年12月1日(土)13:00～

財団法人 広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室

庄原市教育委員会

## 1 はじめに

稲干場古墳群は、庄原市口和町大月に所在する13基からなる古墳群です。今回、中国横断自動車道尾道松江線建設事業に伴い、第2～4・9号古墳の発掘調査を10月9日から12月中旬までの予定で実施しています。

調査の進展に伴い、古墳の様子がはっきりしてきましたので、庄原市教育委員会と共催で、遺跡見学会を開催することになりました。



第1図 稲干場古墳群の位置と周辺の遺跡

(1:25,000 地形図「櫃田」「比和」「上布野」「永田」)

- 1 稲干場古墳群 (13基 図中黒丸は第2～4・9号古墳の位置)
- 2 下日南古墳
- 3 下日南横穴
- 4 敷地古墳
- 5 番久古墳群 (5基)
- 6 上原畑遺跡
- 7 大畑古墳群 (3基)
- 8 川平古墳群 (3基)
- 9 黒岩城跡
- 10 あいが城跡

稲干場古墳群は、標高 418m の山塊の北西方向に延びる尾根上に所在しており、発掘調査を行っている 4 基の古墳は、古墳群の中でも西部に位置しています。

第 2～4 号古墳は標高約 310～325m の尾根上に、第 9 号古墳は第 2～4 号古墳から谷を挟んで北側に位置する標高約 321m の尾根先端に立地しています。

次に、口和町内の遺跡を時代別に紹介します。

#### ○縄文時代

大月の上原畑遺跡（6）からは、西日本でもその出土例が少ない独銛石（どっこいし）が採集されています。また宮内では、縄文土器片が採集されています。

#### ○弥生時代

集落跡などの遺跡は確認されていませんが、湯木の王子塚古墳の墳丘盛土から、弥生土器片が出土しています。

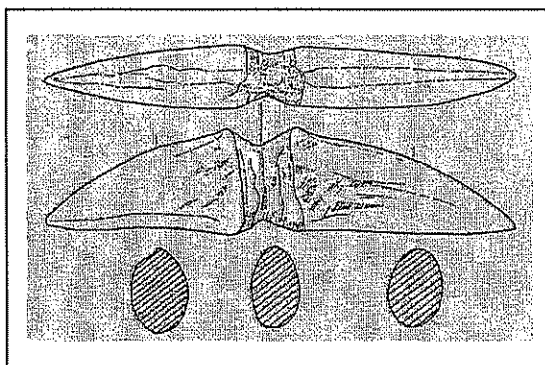
#### ○古墳時代

口和町内では、これまでに約 150 基の古墳や横穴墓が確認されており、大月、常定、金田、湯木などの地域に所在しています。

発掘調査が行われた事例では、昭和 38（1963）年にパイロット事業に伴って行われた常定の峯双横穴墓群（みねそうよこあなぼぐん）の調査で、第 1 号横穴墓から、馬具（轡（くつわ））や鉄刀などの鉄製品が出土しています。

昭和 53（1978）年に町道改良工事に伴って行われた湯木の池津第 1 号古墳（いけづだい 1 ごとふん）の調査では、6 世紀後半に造られた横穴式石室が確認され、7 世紀前半までの間に 2 回以上追葬されたことがわかっています。

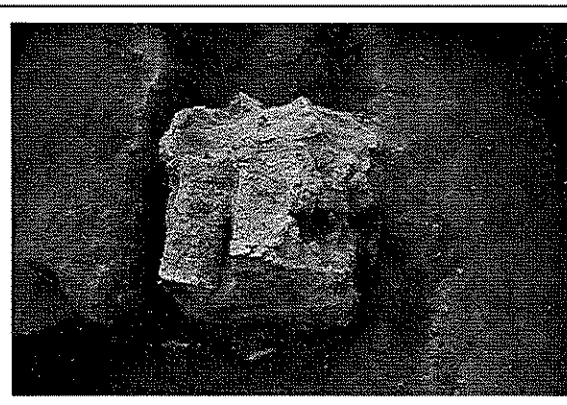
また当事業団が、今年度、中国横断自動車道尾道松江線建設事業に伴って行った金田（きんで）の曲第 2 号古墳（まがりだい 2 ごとふん）の調査では、県内で 11 例目となる短甲（たんこう）や鉄刀・鉄鏃などの鉄製品が出土しました。



第 2 図 独銛石（『口和町誌』から）



曲第 2 号古墳発掘調査状況



曲第 2 号古墳短甲出土状況

## 2 調査の概要

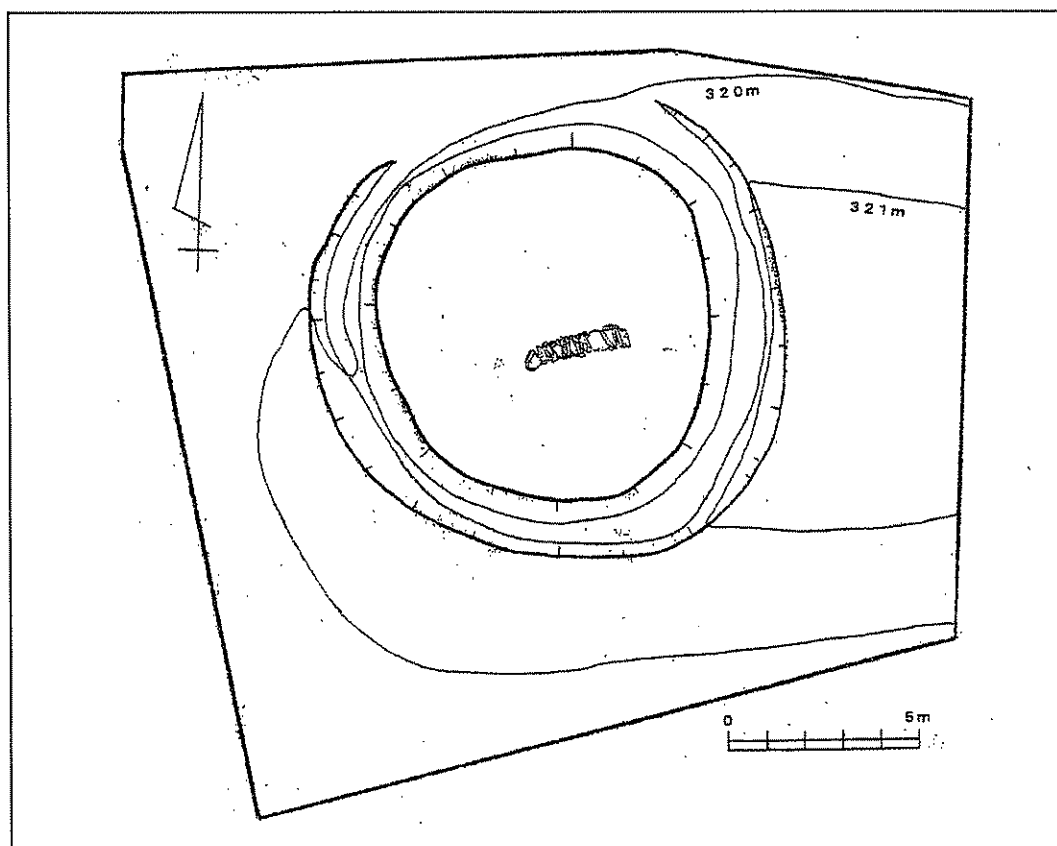
発掘調査は、第9号古墳→第4号古墳→第3号古墳→第2号古墳の順に行っていますので、調査順に説明します。

### (1) 第9号古墳

西に延びる尾根の先端に位置する直径約10m、高さ約0.7mの円墳です。墳丘の周囲には上端幅約1.3m、深さ約0.6mの溝が4分の3程度めぐっています。

埋葬施設は、内法の長さ約2.3m、幅約0.5mの箱式石棺を設けています。

遺物は、周溝から土師器や鉄鏟と思われる鉄器が出土しており、古墳の周辺からは、数点の鉄滓(てっさい)や縄文時代晩期の土器片、寛永通宝(かんえいつうほう)を採集しました。



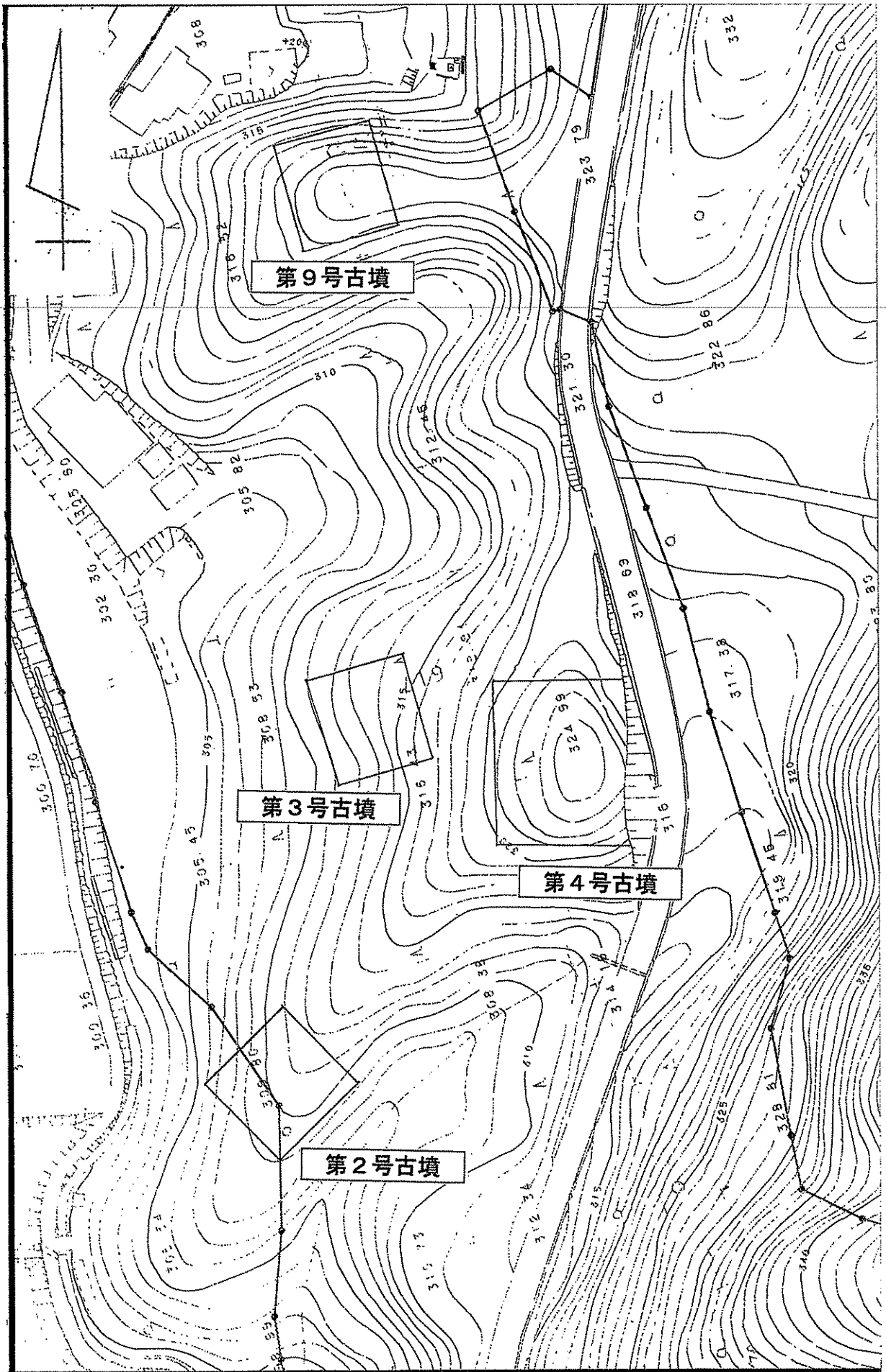
第3図 第9号古墳墳丘測量図(1:200)

### (2) 第4号古墳

南西に延びる尾根の頂部に位置する直径約12m、高さ約1.7mの円墳で、今回発掘調査を行った4基の中では最大規模です。

埋葬施設は、墳頂部で土壙2基を確認しています。また、墳丘の北西から西側にかけて、周溝のすぐ外をテラス状に平坦にしています。これは、古墳の見栄えが良いように、視覚的効果を狙ったものと考えられます。このような施設は、三次市吉舎町の三玉大塚古墳などにあります。

遺物は、墳丘北西側の周溝内に掘られた土壙から、須恵器(杯身・杯蓋・短頸壺)が出土しています。



第4图 第2~4・9号古墳周辺地形図 (1:1,000)

### (3) 第3号古墳

第4号古墳がある尾根筋から西に派生した小規模な尾根上に位置する、直径約6.7m、高さ約1.4mの円墳です。墳丘の周囲には、上端幅約1.7m、深さ約1.4mの溝が5分の4程度めぐっています。

埋葬施設は、墳頂部で土壌1基を確認しています。

遺物は、墳頂部から須恵器(はそう)が出土したほか、周溝から須恵器(杯身・高杯)が出土しています。周溝から出土した須恵器は、1か所に集中していることから、その周辺で何らかの祭祀を行った可能性があります。またこのほか、調査区内から磨製石斧などの石器や、鉄滓などが出土しました。

### (4) 第2号古墳

第4号と同じ尾根の南西先端に位置する直径約9m、高さ約0.8mの円墳です。墳丘の周囲には、上端幅約1.5m、深さ0.8mの溝がめぐっています。

## 3 まとめ

発掘調査の結果、4基の古墳はいずれも6世紀前半に造られたと考えられます。中でも第2～4号古墳は、同一地形に近接して造られていることから、その被葬者は密接な関係にあったものと思われます。

今回の調査成果は、口和町大月地域の古墳時代の様子や、いにしえから口和地域に生きた人々の姿を解き明かす上で、貴重な情報となります。

### 参考文献

広島県教育委員会『広島県遺跡地図IX』 2003年

口和町教育委員会『口和町誌』 2000年

口和町教育委員会『池津第1号古墳発掘調査報告書』 1979年

吉舎町教育委員会『三玉大塚―調査と整理―』 1983年

田辺昭三『須恵器大成』 1981年